

## Book

### 『となりのミドワイフ お産に元気をくれる人』

熊手麻紀子・著

私はミドワイフではありません。3人目の子どもが生まれたところから、お産や子育ての環境をよりよいものにしていくための市民活動をしてきました。

私は自分のお産で、ミドワイフたちの目の覚めるような存在感と豊かなお産文化に出会うことができました。その反面、ごく普通に見える周囲の母親たちの中には、病院を訴えるほどではないけれど「プチ医療被害」とも呼べるような、痛々しいお産体験を持っている女性たちがたくさんいる事実にも出会いました。

そのふたつの声に常に接しながら活動していく中で、いろんな意味でそのギャップを解決する鍵を握っているのがミドワイフたちだ、との思いは強まる一方でした。(中略)私は「助産婦応援団」を名乗り、200人あまりの母親たちの声を集めて『だから日本に助産婦さんが必要です』という冊子を作りました。(中略)今年になって、さらにその第2弾を作ろうと思いましたが、作業を進めるうち、どうも地に足がつかないような、なにかもどかしいような感じがしてなりません。(中略)

そこでひとつの事実が見えてきました。

私はこれまで、自分自身に対してその問い直しをしてこなかった。前に作った冊子もすべて人の体験・意見で



『となりのミドワイフ  
お産に元気をくれる人』

熊手麻紀子・著

定価 1,260 円(税込), さいろ社, 2003

した。「私自身」がなぜこれほどまでにミドワイフたちに入れ込んでいるのかということは、あらためて考えてみたこともなかったのです。「どんな私」が「このメッセージ」を発しているのか、ということを断片的にしか確認できていなかったことが、私の自分に対するもどかしさの正体だったのではない。

そんなわけで、この本は、私の個人的なミドワイフとの出会いから始まります。(中略)その私が、こういう経緯で今これをやっているということが「なぜ私は」の答えであり、私のメッセージの土台になっています。

(熊手麻紀子・本書「はじめに」より一部抜粋)